



校長室だより

令和5年度

2月8日

NO. 41

『学び合い』 子供たちが主体的に学び合う授業

まだ、朝は寒さ厳しい秦梨ですが、春を待ちきれず花を咲かせる花々が、秦梨の里にも見られます。白梅は清楚に、寒々しい通学路を彩ります。ロウバイは、凍てつく冬の景色中に優しく光る灯のような、発色のよい黄色い花を咲かせます。そっと顔を近づけると、ほのかに甘い香りが漂います。2月4日は「立春」、暦の上ではもう春。そうした花々からも、春を待ちわびる様子が感じられます。

3学期はまとめの時期でもあります。2月6日には、岡崎女子大学子ども教育学部長で教授の蜂須賀先生をお招きして、授業研究会を行い、秦梨小の今年の研究のまとめを行いました。秦梨小学校では『学び合い』の授業を行っていますが、学校では先生たちも、授業について勉強する機会を設けています。保護者の方や子供たちのアンケートで回答いただいた内容もふまえ、子供たちにとって「よく分かる、できる、楽しい」授業になるように先生も勉強をします。今回は3年生と5年生の算数の授業を先生に見ていただきました。

3年生の小菅先生の授業では、小菅先生の明るくはきはきとした働きかけに、一生懸命、真面目に授業に取り組む子供たちの姿が見られました。5cm4mmを、5.4cmのように小数で表す内容でしたが、秦梨の『学び合い』にあるように、全員が答えをきちんと出し、しかもなぜそうなるか、それぞれきちんと仲間に説明することができるなど、しっかり授業の内容を身につけている様子が見られました。また、頑張っている子やいい考えを出した子を、進んで褒める小菅先生の優しさも、見られました。

5年生の社本先生の授業は、4人のクラスで、内容も「速さ」の難しい教材でしたが、一人一人が集中して考え、そして仲間とその考えを関わり合わせた、とても良い授業でした。それぞれの動物の走った道のりと時間から、どの動物が一番速いのか考える授業でしたが、大人でも分からなくなりそうな、「1秒あたり進んだ道のり」と「1mあたりかかった時間」を、全員が区別して考えることができました。難しい課題にも、意欲的に、諦めずに取り組む姿はとても立派で、一人一人の授業に向かう意欲の高さと、仲間と協力し合う姿は、これまでに真剣に授業に取り組んできた証だと言えるでしょう。

岡崎市では、現在「チーム学習」が行われています。(昔はグループ学習と言われていましたが)30名以上の1クラスを約4人ずつのチームに分け、そのチーム内で、子供同士関わり合って勉強します。それでも実際には、分からない子は何もせず、分かる子だけが活躍する授業もよく見かけます。けれど秦梨の『学び合い』では、クラス全員が一つのチームであり、一人一人が自分で問題に向かい、分からなければ教えてもらったり、ヒントを見たりして解決を図ります。また、できた子も分からない子に教えてあげたり自分の考えを伝えたりします。大事なことは、一人一人が問題に対してどうしたらいいか見通しをもって取り組み、困ったら誰でも、助けてあげられることです。そして先生たちも、その子供の「主体的」な姿を、引き出し支えられるよう、今後も勉強をしていきます。